病棟ベッドサイドで下肢静脈エコーを実施して

～病棟業務への拡大～

◎佐藤 美佐子[1)]、工藤 祐一[1)]、鈴木 靖政[1)]
社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院[1)]

【はじめに】

当院では整形外科の手術後離床前の検査として下肢静脈エコー検査を行っている。対象となる手術は人工股関節置換術（THA）、人工膝関節置換術（TKA/UKA）、脊椎手術で年間 900 件を超え、検査室への移動に伴う病棟スタッフの人員確保と患者さんの精神的負担が課題となっていた。今回、業務改善への取組みとして、病棟ベッドサイドでの下肢静脈エコーを検討し実施したので報告する。

【問題点】

病棟で検査をする上での問題点として、超音波診断装置の確保、検査体制（人員配置）、検査結果の報告体制、検査する病室の環境整備などが挙げられた。その中でも環境整備の点において、病室の明るさや検査スペースの確保などが問題になった。

【まとめ】

ベッドサイドでの検査を実施後、患者さんや病棟スタッフからは良好な反応が得られ、患者さんの精神的負担と病棟業務の負担軽減が図れたと考えられる。また、前述した対象手術以外でもベッドサイド検査の要望が出てきているなど新たな課題もあるが、より良い検査の効率化と充実に取り組んでいきたい。

連絡先－023-682-1111（代表）